

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
15	おせっかい人間養成大作戦 —地域の台所を中心に—	あいあい食堂	
		松田 悠希	宇都宮大学 教育学部
		指導教員 氏 名	陣内 雄次

1. 提案の要旨

日本では、人口減少、超高齢化、核家族化、格差社会などにより、地域の人々の交流が希薄になり生きづらさや困難を抱える人々が増えている。この問題は宇都宮市も例外ではない。このように、これからの社会には人々が孤立しないようにそして一人ひとりが自分らしく生きていけることをそっと支えるものが必要となっている。

これらの問題に対し、様々な居場所づくりが行われている。その中で地域住民や企業、社会福祉法人やNPO法人が主体となって本業とは別に行っている食堂が増えてきている。また、その食堂の活動から「おせっかい」を生きがいとする人々がうまれているようである。

本提案では、上記食堂を「地域の台所」と呼び、その「地域の台所」を中心に宇都宮市で「おせっかいさん」を増殖し、そのことでみんながハッピーに生きていける宇都宮の未来を創造し、持続可能なコミュニティを作ることを提案する。

2. 提案の目標

人との関わりが希薄になって生きづらさや困難を抱えている人が増加している現状を踏まえて、未来の宇都宮には、地域の様々な人が気軽に日常的に関われる場所・機会が必要だと考えた。

そこで、市内の人々が、「地域の台所」で「おせっかい」することの大切さや「おせっかい」されることの嬉しさを実感することで、「おせっかいさん」が増え、希薄になっている人と人との交流を復活し、宇都宮に暮らし、宇都宮で学び、働き、遊ぶ人々がハッピーになる街にすることを長期的な目標とする。

それに向けて「様々な人が気軽に日常的に関われる場所を増やす」「おせっかいさんを増やす」「おせっかいさんの質を高める」ことを短期的・具体的目標として掲げる。

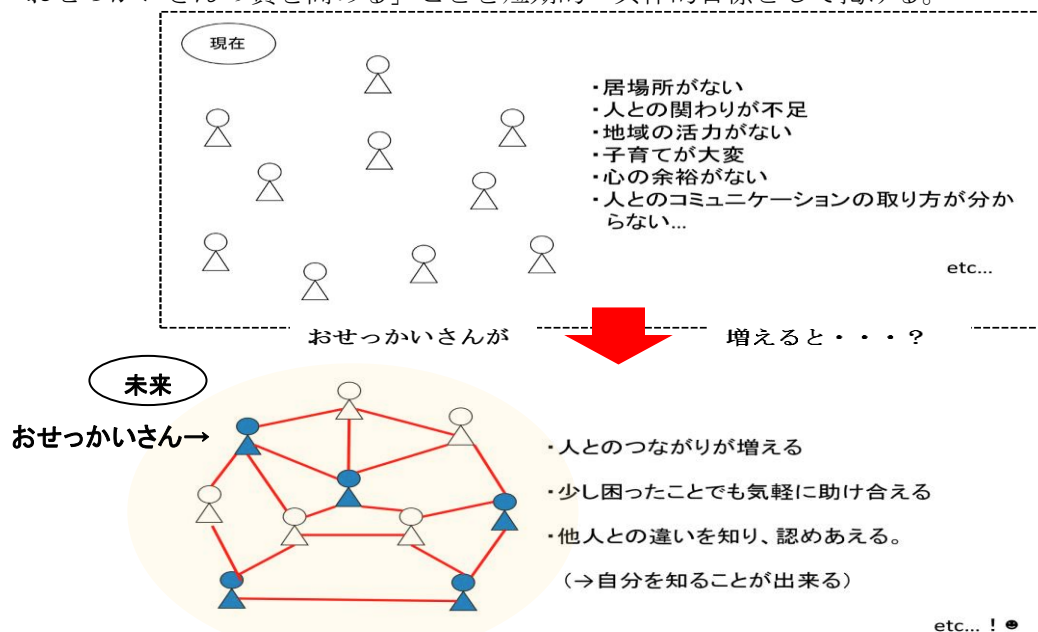


図1 おせっかいさんの増加と交流の復活 作成：本チーム

3 現状の分析と課題

(1) 宇都宮市の現状

1) 宇都宮市の少子化・高齢化社会と核家族化

宇都宮市の合計特殊出生率は、平成 26 年に 1.57 となっており、国や栃木県と比べて高くなっている。しかし、人口を維持するのに必要な合計特殊出生率 2.08 より低い数値なので、人口減少は続くと推定される。

一方、一般世帯（普通世帯）の世帯人員別世帯数及び世帯人員（表 1）を見てみると、宇都宮市内では、4～7 人以上の世帯数が年々減少し、1～3 人の世帯数が増加の傾向にある。また、平成 22 年には一人暮らし世帯と他の世帯数の間で大きな差が見られるようになっている。宇都宮市でも核家族化は進んでいるのである。さらに、宇都宮市の単身高齢者数は増加傾向にある。

宇都宮市では、連合自治会における最も若い役員の年齢が 60・50 代に多くなっている。このことから、各種団体の担い手不足や地域への関心の希薄化が問題視され、コミュニティそのものの衰退への危機感を募らせている。（出典：宇都宮市の地域づくりにおける現状と課題アンケート調査 2007 年 栃木県 NPO ボランティア理解促進事業 まちづくり市民工房実地）

上記より、人と人との交流が希薄になり地域への関心も薄れている。また、高齢化が進むことにより認知症や孤独死といった社会問題も深刻化する可能性がある。

表 1：宇都宮市の世帯数及び世帯人員の変化

年 次	一般世帯(普通世帯)の世帯数								各年10月1日現在	
	総数	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	世帯人員	1世帯あたり 人 員
昭和 55 年 (1980)	111,176	17,709	18,338	22,303	31,277	12,361	5,958	3,230	367,712	3.31
60 年 (1985)	136,203	26,876	23,163	25,583	34,955	14,910	7,081	3,635	433,402	3.18
平成 2 年 (1990)	152,862	35,509	29,111	28,763	34,805	14,005	7,103	3,566	457,787	2.99
7 年 (1995)	167,470	44,501	35,423	32,037	32,848	13,002	6,473	3,186	469,819	2.80
12 年 (2000)	180,311	51,047	42,012	35,425	31,700	11,967	5,579	2,581	490,234	2.66
17 年 (2005)	194,051	58,967	48,361	37,872	31,035	10,910	4,823	2,083	492,152	2.53
22 年 (2010)	210,240	71,628	53,641	38,851	30,374	9,923	4,052	1,771	503,890	2.40

資料：政策審議会(国勢調査結果)

(注1) 昭和55年までは普通世帯、昭和60年以降は一般世帯の数。普通世帯には同居、下宿、会社の独身寮などの単身者を含めていないのに対し、一般世帯にはこれらを含めている。

(注2) 昭和60年以降は旧上河内町、旧河内町分を組み入れている。

出典：「一般世帯(普通世帯)の世帯人員別世帯数及び世帯人員」、宇都宮市、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示 2.1 <http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/>

2) 宇都宮市の「まちづくり」—総合計画について—

平成 19 年度に、「第 5 次宇都宮市総合計画」が策定された。平成 34 年度を目標年次とする第 5 次宇都宮市総合計画基本構想に掲げる都市像「くらしいきいき まちキラキラ つながる人 ★ 夢のみや うつのみや」を実現するため、基本計画（前期 5 年、後期 5 年の計 10 年、平成 20 年度から平成 29 年度）に基づくまちづくりが進められている。

【第 5 次宇都宮市総合計画におけるまちづくりの目標】

目標 1 みんなが幸せに暮らせるまち

目標 2 みんなに選ばれるまち

目標 3 持続的に発展できるまち

このまちづくりの目標 1 では、子どもやその親が地域社会の中で安心して生み育てられ、健やかに育つことや、高齢者が健康で生きがいを持ち生き生きと暮らすことなどを未来像としている。この目標達成には、宇都宮に住む人々が日常的に地域の人とつながり、助け合うことが必要である。このようなコミュニティを形成するには、様々な人が気軽に日常的に関われる場所を増やすことが必須だと考える。

(2)「地域の台所」について

「地域の台所」に関するアンケート調査と聞き取り調査の概要と結果の総括を以下に述べる。

1) アンケート調査概要

調査目的：県内子ども食堂(子ども食堂とは名乗っていない事例を含む)を共通項目で実態を把握し、効果や課題、そこに来る方々の交流の特徴やその意義を調べる。

調査対象：県内 16 か所の子ども食堂の代表者

実施期間：平成 29 年 8 月～平成 29 年 9 月

調査内容：食堂の概要や運営方法、課題、地域とのつながりなど。

調査方法：各食堂にアンケートを郵送で配布・回収する。

有効回答数：14

(※あいあい食堂とは、宇都宮大学の学生を中心とした団体がコミュニティカフェ「ソノツギ」で運営する「地域の台所」)



写真 1 あいあい食堂の様子
平成 29 年 8 月 25 日 撮影 松田

2) 聞き取り調査概要

調査目的：上記アンケート調査をもとに、それぞれの活動内容や交流についてより具体的に把握し、子ども食堂での交流の特徴と意義を調べる。また、おせっかいさんの実態を明らかにする。

調査対象：上記アンケートの返信があった食堂のうち、メールでの連絡を取れる食堂 9 か所の食堂代表者を対象とする。

調査期間：平成 29 年 10 月 14 日～
平成 29 年 11 月 13 日

調査方法：先方の食堂開催日に聞き取り調査に行く、または都合のつく日に聞き取り調査をする。いずれも可能であれば会話の内容をボイスレコーダーに記録する。

調査内容：運営方法、やりがい、仲間づくり、「おせっかい」についてなど。



写真 2 市内の子ども食堂のご飯
平成 28 年 6 月 27 日 撮影 松田

3) 調査結果

運営主体：NPO法人 6 件、任意団体 4 件、社会福祉法人 1 件、一般社団法人 1 件、株式会社 1 件、合同会社 1 件という結果になった。主な共通点は、様々な活動をしている中の一環として食堂を行っているということだ。

開催頻度：食堂によってさまざまだが、週に 1 回、月に 1 回行っている場所が多くあった。

開催時間：16 時～22 時の夕食の時間に開催しているところが多いが、昼食をメインにした食堂も 3 件あった。

利用料金：どの食堂も「低価格、年齢別の固定料金」で設定されていた。子どもの利用料金は(定義は食堂によって多少の差あり)無料～300 円の中で設定されていた。大人は無料が 1 件で他は 200～500 円の中で設定されていた。また、未就学児・支払いが困難な場合は無料としているところも 3 件あった。

利用者：14 件中 13 件の食堂が利用者の限定を行っていない。その理由には、運営者の「地域の居場所になりたい」「どんな人にも利用してもらいたい」という強い思いがあった。

運営課題：主に「継続するための資金不足」「地域住民の食堂への理解不足」「人手不足」などがあげられた。

地域とのつながり：それぞれの食堂で、地域とのつながりを各子ども食堂の代表者に図2のように図化してもらった。ほとんどの食堂が地域の子どもの大人とつながりを作れている。中には大学生や地域の若者、1人暮らしの高齢者がボランティアをしている食堂がある。また、農場、フードバンク、地域住民と食材やおもちゃ、資金の寄付でつながりを作っている。

また、聞き取り調査やあいあい食堂の利用者より「食があると大きな目的もなく気軽に来て参加することが出来る」「子どもを他の人に見てもらえるので、お母さん・お父さんがゆっくりご飯を食べられる。」「子どもが大きな声で騒いでいても白い目を向ける人がいないので安心」「子どもとは何かを知ることが出来る。」などの声も上がっている。

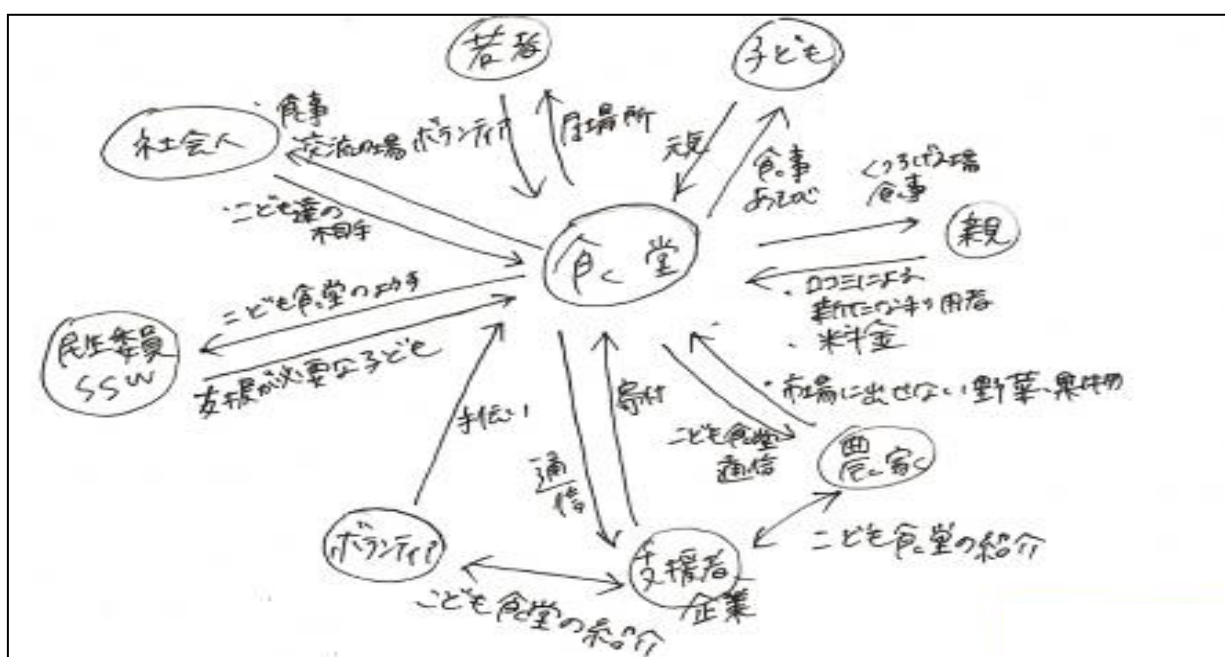


図2 食堂と地域とのつながり例

作成 市内の子ども食堂



写真3 あいあい食堂で
子守に挑戦する大学生ボランティア
平成29年7月28日 撮影 陣内



写真4 あいあい食堂入り口
平成29年9月29日 撮影 陣内

4)「地域の台所」とは？

以上調査結果より、「地域の台所」の特質を整理した。

特質①

「その地域の任意団体（自治会など）、NPO法人、社会福祉協議会、事業所などが主体となって地域住民のより良い暮らしを作るために行っている食堂のこと。」

飲食チェーン店などが機械的に営利を目的として行うのではなく、その地域の団体や事業所が「地域住民の問題解決のため」、「地域住民の交流のため」に運営している場所である。

特質②

「地域の人に関わりやすい工夫を行っていること。」

ここではどんな些細なことでも食堂の支えになり、役割になる。地域の人がボランティアとして運営に参加できる体制づくりや、おもちゃや活動資金などの寄付の受け入れ、利用料金の設定を低くすることで、地域の様々な人が気軽に関わることが出来る。

以上調査結果及び「地域の台所」の特質より、「地域の台所」は提案の目的で述べた「様々な人が気軽に日常的に関われる場所」に適していると考えられる。

（３）「おせっかいさん」について

「おせっかいさん」に関するアンケート調査の概要と調査結果の総括を以下に述べる。なお、聞き取り調査に関しては、（２）で行った調査と同じ内容を使用するので概要は省く。

1) アンケート調査概要

調査目的：本調査では、各子ども食堂のスタッフが子ども食堂に関わって、認識の変化や新たに得た経験、その人なりの子ども食堂に関わるメリットデメリットを調べることで、子ども食堂での交流の特徴と意義を明らかにする。また、「おせっかいさん」に対する考えやイメージを調べる

調査対象：（２）（２）の聞き取り調査を行った食堂 9 か所のスタッフを対象とする。

実施期間：平成 29 年 11 月 9 日～平成 29 年 11 月 26 日

調査内容：基本情報、やりがい、認識の変化、「おせっかいさん」について

調査方法：各食堂にアンケートを郵送で配布・回収する。

有効回答数：26

2) 調査結果

アンケート調査において、「あなたは自分のことを「おせっかいさん」だと思いますか」という問いに「はい」と答えた人は 9 人「いいえ」が 13 人、また、選択肢にはなかったが「中間です」と答えた人が 3 人だった。それぞれが考えるおせっかいさんの定義で「自分がおせっかいさんだ」と思っている人は少ない。

しかし、「あなたが考える「おせっかいさん」とはどんな人ですか」という問いにはプラスイメージが 14 件、マイナスなイメージ 6 件、悪い面と良い面があるという中間的な意見が 1 件あった。また、聞き取り調査においても悪い面と良い面があるという回答が得られた。

また、「「おせっかいさん」は必要か」という問いに対して、「必要ない」と答えた人は 23 人中 2 人だけだった。ここで「どちらともいえない」と回答した人は 10 人で、その多くの人が「「おせっかいさん」は良い面と悪い面があるからはっきり言うことはできない」という回答をしていた。

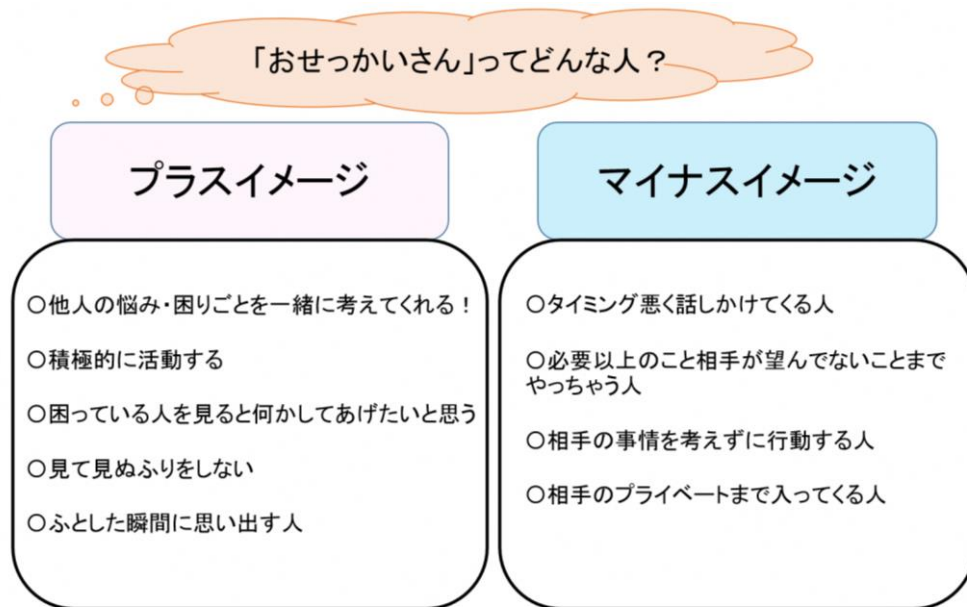


図3 アンケートよりおせっかいさんのイメージ
制作 本チーム

3) 「おせっかいさん」とは？

上記調査結果をまとめ、本提案での「おせっかいさん」の定義を以下に述べる。なお、本提案での「おせっかいさん」とは、特定の人物のことではなく特定の精神的な部分を指す。

①調査のまとめ

上記調査より、「おせっかいさん」には2つの種類があることが分かった。

①「勘違いおせっかいさん」

このおせっかいさんは誰に頼まれたわけではないが、困っている人を「改善したい」と思う人だと考えられる。相手にどんな課題があり、どんな助けを求めているかを考えず、自分の価値観を押し付けて相手に嫌な思いをさせてしまうおせっかいさんだ。

②「グッドおせっかいさん」

このおせっかいさんは誰に頼まれたわけでもないが、困っている人を「助けたい」と思う人だと考えられる。相手の立場に立って物事を考えることが出来き、その人にそっと寄り添って共に課題解決をしようと考えられる人である。これに相手は、自ら欲したわけではないが、結果的に「助かった」「あなたがいてくれてよかった」と思うようである。

②本提案での「おせっかいさん」の定義

本提案では、上記「おせっかいさん」のうち、「グッドおせっかいさん」のことを「おせっかいさん」と呼ぶ。困っている人や悩みを抱えている人がいたら、知らない人であろうと声をかけ、ちょっとした支えになろうとする人である。

このような「おせっかいさん」が増えることで、少しずつ人のつながりが広がっていくと予想する。

4. 施策事業の提案

（１）「おせっかい人間養成大作戦—地域の台所を中心に—」の概要

人と人との関わりが希薄になっている現在、「地域の台所」と「おせっかいさん」の存在が人と人をつなげる接着剤の役割を果たすことが分かった。図 2 のように「地域の台所」で関わった人が得るものは精神的な安らぎやちょっとした経験値、人とのつながりなど、小さなことではあるが、人々が孤立しないようにそして一人ひとりが自分らしく生きていけることをそっと支えるものとなっている。そこで、地域の中に様々な人が気軽に日常的に関われる「地域の台所」と「おせっかいさん」を増やし、その質を高め、みんなが幸せに生きていける宇都宮の未来を創造するために具体的な提案を行う。

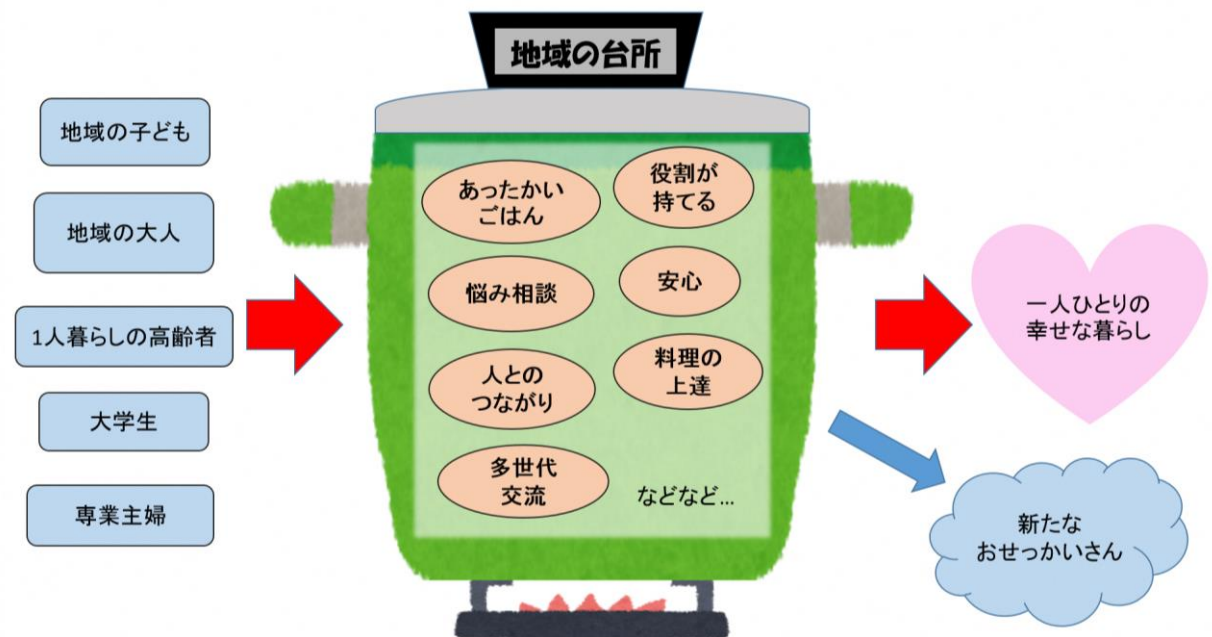


図 4 「地域の台所」の仕組み 作成：本チーム

（２）「地域の台所」でのそれぞれの役割

「地域の台所」では、様々な人が様々な役割を持つことが出来る。下の図 5 は各地に「地域の台所」が増えたとき、それぞれの台所が目指すモデルである。以降で地域の人々がそれぞれどんな役割をもつことが出来るか例を述べる。

運営主体は主に、NPO法人、任意団体、一般社団法人、社会福祉法人などが担う。そこにボランティアとして地域の子ども、大学生、社会人、高齢者など、みんなが関わる事が出来る。

役割の例

子ども…「地域の台所」に来てご飯をたくさん食べることで栄養がたくさん取る。

みんなが使った食器の片付けなどのお手伝いをする。

親…他の子どもの面倒を見る。他の親や大学生などへ子育て経験談を語る。

大学生…持ち前の体力で「地域の台所」に来た子どもたちの世話を焼く。子どもたちに勉強を教える。運営メンバーになって活動する。ご飯を食べに来た人と話をする。

高齢者…地域の料理、昔遊びを教える。今まで生きてきた経験談を若者に語る。

家に余っている食材、おもちゃ

農 家…売りに出せないが食べられる野菜・お米の提供

民生委員やスクールソーシャルワーカー…

「地域の台所」に来てご飯を食べながら子どもの見守り。

学校などで子どもたちや保護者に「地域の台所」を紹介する。

行政…広報、資金援助など。（他の役割は（３）で述べる）

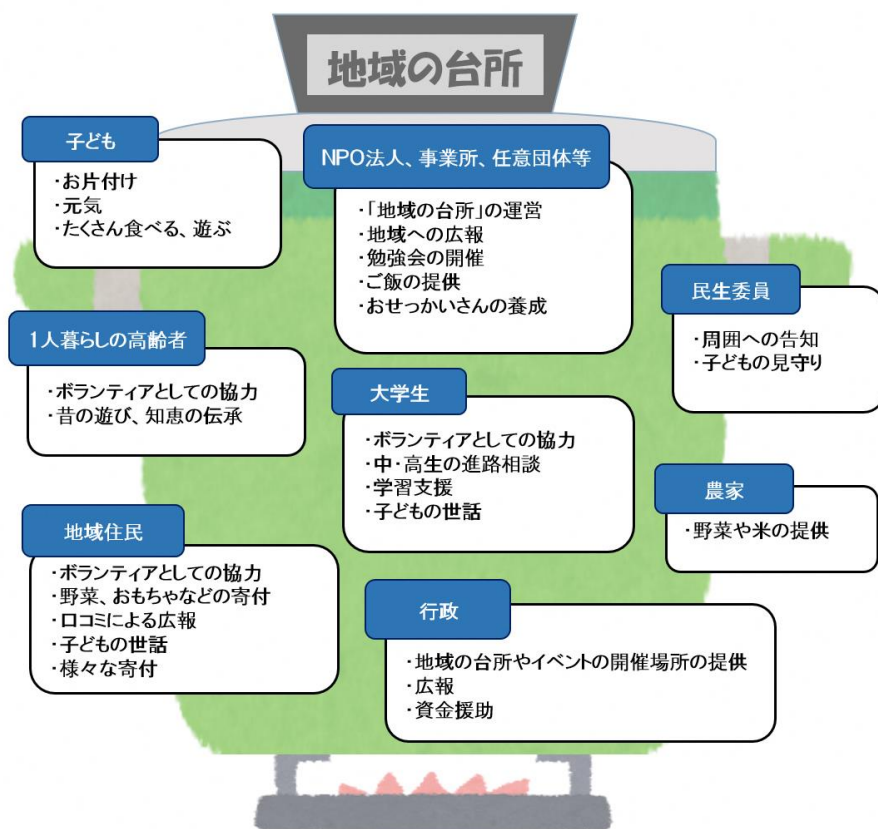


図 5 各地に出来た「地域の台所」が目指す役割モデル

作成：本チーム

（３）幸せな暮らしへのプロセス

本提案では、市内の人々が、「地域の台所」で「おせっかい」することの大切さや「おせっかい」されることの嬉しさを実感することで、「おせっかいさん」が増え、希薄になっている人と人との交流を復活し、宇都宮に暮らし、宇都宮で学び、働き、遊ぶ人々が幸せに暮らせるまちづくりを大きな目標として、次の３つのプロセスを提唱する。

「地域の台所」の運営者と宇都宮市がこの３つのプロセスの中でどのような役割をすればよいか以下に述べる。

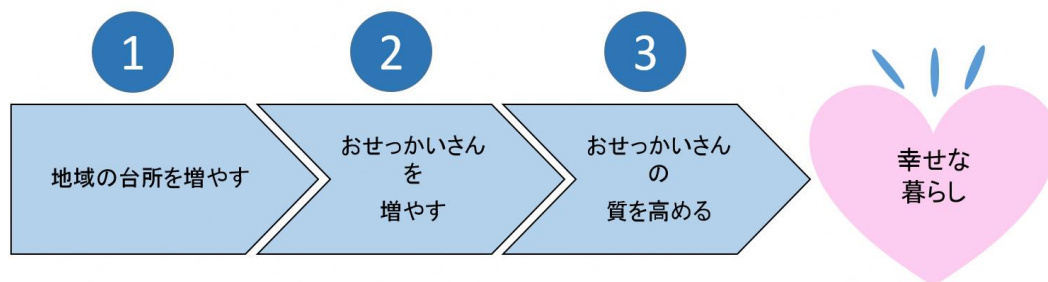


図 6 幸せな暮らしへのプロセス

作成 本チーム

必要なこと

1) 地域の台所を増やす

「地域の台所」の担い手を地域の中から探し、「地域の台所」となる場所、運営のための知識。

①おせっかいさんの卵発掘！

「地域の台所」運営者

既存の「地域の台所」にご飯を食べに来る人、ボランティアをしている人の中から「自分でも地域の台所をやってみたい」というつぶやきをキャッチして、後に提案する「地域の台所」勉強会などを紹介する。

宇都宮市

宇都宮市で出している「広報うつのみや」などの地域情報誌で「地域の台所」の魅力を特集する。またそこで「地域の台所」勉強会を紹介する。

②「地域の台所」の勉強会、質問大会、活動報告会を開催！

「地域の台所」運営者

宇都宮市内の「地域の台所」を集め、勉強会や質問大会、活動報告会を企画・開催する。

市内で「地域の台所」を始めたい人からの質問や意見に答え、次に「地域の台所」を開く人の手助けをする。

宇都宮市

必要であれば会場の提供をする。

③ハード面の協力

宇都宮市

宇都宮市の空き家対策と連携して「地域の台所」を始めたい人に場所の提供・相談を行う。

必要なこと

2) おせっかいさんを増やす

市民が「おせっかいさん」の存在を知る。
「おせっかいさん」として活動する方法を紹介。

①「おせっかいさん」認定講座を開く

宇都宮市

認定講座の企画運営をする。

講座では、「おせっかいさんとは何か」や「おせっかいさんの活動内容」などを分かりやすく説明する。また、「地域の台所」を始めるにあたり必要なものの確認や場所の確保の協力をする。

②「おせっかいさん研修」を行う

宇都宮市

認定講座を受けた人を対象に「おせっかいさん研修」をする。

研修場は市内の「地域の台所」に委託する。その場合、委託金を「地域の食堂」に支払う。（これは「地域の台所」の運営継続のための資金となる。）

「地域の台所」運営者

認定講座の研修生を受け入れ、衛生管理・仲間の集め方・活動の楽しさを伝える。

3)「おせっかいさん」の質を高める

必要なこと

地域に長く安心して受け入れられるための信頼・質の保障。

おせっかいさんの品質保証～^{キューオーオー}Q O Oクオリティーオブおせっかい～

宇都宮市

「おせっかいの日」を設定し宇都宮発の「おせっかいさんサミット」を毎年開催する。

市内各地の「おせっかいさん」を集めて活動紹介や対談、宇都宮中心街であるオリオン市民広場での出店などを行うことで多くの市民に「おせっかいさん」「地域の台所」を知ってもらう。

このサミットでは毎回「ベストオブおせっかいさん」を決める。審査の仕方は市長などを含めた審査員による審査と Web 上で市民投票をする。選ばれた人には宇都宮市長から「～^{ビーオーオー}B O Oベストオブおせっかいさんバッチ～」が贈呈される。このバッチをつけていることで、街中で困っている人に安心して声をかけられる。おせっかいされる街の人も安心して助けを求めることができる。

5. おわりに

この提案の最大の目的は、「人と人との交流を増やすこと」である。そのことで、気軽に助け合うことができ、お互いに信頼や安心を感じながら地域の中で生きることができる。この目的達成にはいろいろな方法があるが、「地域の台所」は「食」があることで最も関わりやすいと考え提案した。しかし、ずっと先の未来には、意識してこのような場所を作らなくても人のつながりができ、一人ひとりが自分らしく生きていける宇都宮にしていきたい。

6. 参考文献・資料

- (1) 第5次宇都宮市総合計画改訂基本計画

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/1007700.html>

- (2) 厚生労働省資料